

Olivier Messiaen

オリヴィエ・メシアン

— 魂の照応 —

Programme

Olivier Messiaen — extraits de « Préludes » pour piano
メシアン 《前奏曲集》より I. VI. VII. & VIII.

Claire Delbos « L'âme en bourgeon »
huit mélodies pour soprano avec accompagnement de piano
デルボス 《芽吹く魂》 (日本初演)

Olivier Messiaen « HARAWI — chant d'amour et de mort »
pour chant et piano
メシアン 《ハラウィ～愛と死の歌》

Distribution

坂本 知亜紀 *soprano*
chiaki sakamoto

荒川 浩毅 *piano*
hiroki arakawa

2026 11/23 (月・祝) 18:00 開演 (17:30 開場)

The Lutheran Hall

ザ・ルーテルホール

札幌市中央区大通西6丁目3-1 (南仲通) 地下鉄大通駅1番出口徒歩1分

全自由席 前売り 3,000 円 (当日 3,500 円)

道新プレイガイド TEL 0570-00-3871(10:00~19:00火曜定休) <https://doshin-playguide.jp/>
札幌市民交流プラザチケットセンター (札幌市民交流プラザ2階 10:00~18:00休館日・水曜を除く)
セイコーマート店内マルチコピー機 セコマコード: D26112303 (販売期間: 9/1~11/16)

主催: l'atelier セーアッシュ 後援: 札幌市・札幌市教育委員会



予約フォーム
(取扱い期限11/20)

— コンサートに寄せて —

二十世紀の巨匠メシアン最後の歌曲集〈ハラウィ〜愛と死の歌〉。この壮大な作品に導かれる様にラシェル・ヤカール氏に出会い、2001年、パリでのリサイタルで全曲演奏しました。大西洋に浮かぶイル・ド・レの彼女の自宅に泊まり込みこの作品に向かい合った時間は、二人で見据える楽譜の向こうに作曲家の存在を感じる様な幸せに包まれていました。

以来、この作品を様々な形でプログラムに組み入れて参りましたが、今回は、芸術家の間に迸る靈感を背景に、作曲家を育んだインスピレーションの源泉からこの作品を見つめたいと思います。

プログラムは20歳のピアノ作品、〈前奏曲集〉から始まります。後に自身の作品の「真のop.1」と語っていた様に、メシアンの音楽語法の萌芽を宿すものです。最愛の母の死の翌年から作曲が行われ、その大きな喪失も映し出されています。

詩人セシル・ソヴァージュが、胎児の、また、嬰兒のメシアンに向けて編んだ詩集〈芽吹く魂〉。豊かな母性・女性性の表現にもまして神秘的な予感に満ちたその言葉は、メシアンに音楽の最初の靈感を与え、終生作曲家の傍らに在りましたが、直接付曲したのは、当時メシアンとの子を宿していた最初の妻、クレール・デルボスでした。

1940年代に入ると、作曲家としての成功とは裏腹にメシアンの私生活は大きな試練を迎えます。優れたヴァイオリニスト、作曲家であった妻デルボスは精神を病み、家庭生活が徐々に崩壊してゆく中、メシアンの創作は人間的な愛情の表現へと向かいます。〈トゥランガリラ交響曲〉〈五つのルシャン〉とともに、所謂「トリスタン三部作」の一角を成す〈ハラウィ〉は、彼の殆ど全ての歌曲同様、作曲家自身のテキストによるものですが、よりシュールレアリスムの色彩を濃くしています。デルボスの死後、後に伴侶となるピアニスト、イヴォンヌ・ロリオに触発され〈アーメンの幻影〉〈幼子イエスに注ぐ二十の眼差し〉で更なる発展を遂げたメシアンの絢爛たるピアノイズム、その豊かな稔りも反映されています。12曲で構成されるチクルスの骨組みを成す主要なモチーフはペルーの古謡から採取された他、東洋の民族音楽からの引用など、当時の前衛を行く音楽の中に愛すべき素朴さを湛えていることも大きな魅力かと思えます。

今回は気鋭のピアニスト、荒川浩毅さんとの共演です。札幌が生んだ輝かしい才能を誇らしく思いつつ、皆様とルーテルホールにて共にする時間を楽しみにしております。

(坂本知亜紀)

Interpreters

坂本 知亜紀 *Chiaki Sakamoto* *soprano*

東京藝術大学大学院博士後期課程単位取得退学。'94年京都フランス音楽アカデミー参加を契機にラシェル・ヤカール氏に師事。フランス音楽コンクール、日仏声楽コンクールともに第1位、日本声楽コンクール第2位。'99年国際モーリス・ラヴェルアカデミーにて更にフランス歌曲の研鑽を積む。'01年パリ国際声楽コンクールで欧米圏外の歌手として初のフランス歌曲部門グランプリなど四つの国際コンクールに入賞。これによりパリ・エコール・ノルマル音楽院に入学を許され、半年後、審査員満場一致首席にて高等演奏家資格を取得。文化庁在外研修員を経て'04年帰国、東京フィルハーモニー管弦楽団との共演でリゲティ「Mysteries of the Macabre」オーケストラ版日本初演。同年のリサイタルにより札幌市民芸術祭大賞を受賞。'08年札幌、東京にてメシアン歌曲全曲演奏。ラヴェル、シェーンベルク、ベリオ、クラム作品など、器楽アンサンブルとの共演も積極的に行う。'06年より東京藝術大学にてフランス歌曲講座を担当。



荒川 浩毅 *Hiroki Arakawa* *piano*

札幌市出身。第93回日本音楽コンクール第2位、三宅賞受賞。第9回野島稔・よこすかピアノコンクール第2次予選、本選共に聴衆賞受賞。第一回藝大ピアノコンクール第1位。第68回全日本学生音楽コンクール全国大会中学校の部第1位（野村賞・井口愛子賞・福田靖子賞、横浜市民賞、ANA賞受賞）。第71回同高校の部第3位。東京藝術大学音楽学部を経て、同大学大学院音楽研究科修士課程在学中。学内にて2021年度アリアドネ・ムジカ賞受賞。2023年度青山音楽財団奨学生、アカンサス音楽賞、藝大クラヴィーア賞、同声会賞受賞。これまでにピアノを落合真紀・芳川香帆・渡辺郁子・吉永哲道・土田英介・外山啓介・植田克己・迫昭嘉・野原みどりの各氏に師事。2台ピアノアンサンブル Les Ours Enchantésメンバー。

